

特集 熱中症予防

平成29年7月8日から平成29年8月31日まで

神奈川県労働局・各労働基準監督署

Visualization feat. prevention of heatstroke

「安全の見える化」とは日頃取り組んでいる安全活動や職場にひそむ危険などを目に見える形にして、効果的に災害防止を推進する取組です。「見える化」することにより、労働者の安全意識が高まり、安全活動の活性化の効果が期待できます。

休憩場所の見える化



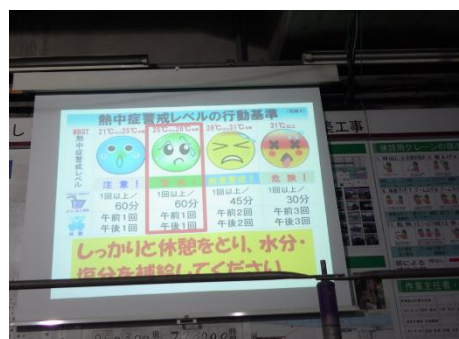
作業場所と休憩場所を緑色のネットで区分。赤色のテントで日陰のある休憩場所を確保している。（直射日光による作業者の体力消耗を休憩時回避。）

熱中症警戒レベルの見える化（作業員への注意喚起）

6/27(月) WBGT値 予報	
WBGT値 (°C)	指標
28~31	厳重警戒
25~28	警戒
21~25	注意
21未満	ほぼ安全

指標	9時	12時	15時	18時	21時	24時	3時	6時
WBGT値 (°C)	25	25	26	24	23	23	22	21

3時間ごとのWBGT値予報と指標（警戒レベル）を表示し、休憩、水分補給、作業の制限について注意喚起している。



朝礼会場のステージ上のプロジェクターに「熱中症警戒レベル」を映し出し、作業員に水分補給の間隔、午前午後の休憩回数を示し、注意喚起している。

水分・塩分補給設備の見える化（水分・塩分補給促進）



冷水の給水器、作業員各人が使用する水筒に入れる水を作る製水機と塩分補給用の飴を屋根のある通路わきに集めて設置している。給水タンクは各作業場所に設置している。

リアルタイムでの作業環境の見える化（環境変化の対応）



WBGT値を常時測定して表示し、測定器の下側に掲示した一覧表で現在の作業環境を把握している。（写真は測定前で未表示）

作業時・休憩時に常時冷房を入れておき、熱中症の疑いのある作業員を収容し、横にさせて安静にできる「熱中症応急処置室」（プレハブの救護施設）を設置している。

応急処置室の確保・見える化



作業員の脱水状態の見える化（水分補給促進）



トイレ内に尿の色による身体の脱水状態を掲示し、色が濃い場合には、自主的に水分補給をするよう注意喚起している。

尿の色による脱水症状判定チャート

以下のチャートと自分の尿の色を比べることで脱水症状の度合いを調べることができます。横に示された対策を行い、自分の体の水分量を回復させましょう。

- いい感じです。普段通りに水分をとりましょう。
- 問題はありませんが少し給水してもいいかもしれません。コップ1杯でいいので水分を取りましょう。
- 1時間以内に約250mlの水分を取りましょう。屋外、あるいは発汗していれば500mlの水分を取りましょう。
- 今すぐ250mlの水分を取りましょう。屋外、あるいは発汗していれば500mlの水分を取りましょう。
- 今すぐ1000mlの水分を取りましょう。この色より濃い、あるいは赤／茶色が混じっている時は脱水症状以外の問題が考えられます。すぐ病院に行きましょう。

WBGT値の表示 一覧表